

R3.8.2 朝日村農業ビジョン検討会(第1回) 会議録 1/4

開催日	令和3年8月2日	時間	13:30～ 14:50	場所	役場第1、2会議室外
会 議	朝日村農業ビジョン検討会(第1回)				
内 容	<ul style="list-style-type: none"> ・朝日村農業ビジョン検討会について ・朝日村農業ビジョン策定について ・策定スケジュールについて ・朝日村農業の現状について ・農業ビジョングループワークについて 				
出席者	別紙名簿のとおり(欠席者:曾根原加奈子、武田修、高山泰直)				
<p>あいさつ(小林村長)</p> <p>お暑い中お集まりいただきましてありがとうございます。今日は、農業に関する各方面の方からお越しいただきました。そして、アドバイザーとして県の農業農村支援センターのお二人からもご出席をいただいております。よろしくお願いいたします。</p> <p>今日、初めての会合になりますが、農業ビジョンをみんなで作ろうということであり、朝日村はだれがどう見ても主産業が農業である、ということは間違いのないことでもあります。そして、農業を取り巻く課題は数え上げたらきりがなく、非常に厳しい状況の中に置かれているということでもあります。</p> <p>ビジョンというのは、行政、一般の会社、企業、農業生産法人もそうありますが、将来のビジョンを持たずしてその事業の継続はありえないと思っております。そのビジョンというのも短期間ではなく、15年、20年先を見据えて今から何かをやらないといけないということです。一番は、今のままいくと10年、15年先には朝日の農業がもっと陳腐化して継続不可能な状況になる可能性があります。ですから、今から私たちが狙う朝日村の農業にはどこに強みがあって、どういう風にしなければいけないんだという明確なビジョンをみんなで持って、そして、行政は行政としてそこに必要な投資をし、または、農業生産法人はそのようなみんなのビジョンに合わせた作付けや経営方針を決めていただき、15年、20年先も朝日村の農業が非常に強い農業であることをぜひ目指したい。</p> <p>いろいろなデータで改めて感じていただけると思いますが、今のままでは潰れてしまうという危機感を持ってビジョン作成にあたっていただきたい。また、みんなで作り上げたビジョンだからみんなで守っていこうではないか、というような連帯感も、もしかしたら生まれてくるのかなと思っております。</p> <p>ここ数年間、アグリチャレンジセンターということでやってきまして活動していますが、そういったものも含め、または、村のあらゆる機関、状況を全部含め、朝日の農業をどうするかという幅広い見地からみんなで自由な意見を出しあっていただき、狙う朝日村の農業を作りあげてほしい。ここで、皆さんにいろいろなアイデアを出していただかないと将来はないということを再度申し上げ、ぜひ自由活発なご意見をいただき、それを行政としては村政に生かしていきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。</p> <p>農業ビジョンをぜひ作っていきたくて思っていますのでよろしくお願いいたします。</p>					

協議事項

(1)～(3) (清沢産業振興課長説明)

(4) (清水係長説明)

(5) 3グループにわかり討議

議題は朝日村農業の「強み、弱み、課題」

討議後まとめを各グループの代表者より発表

グループ討議まとめ発表

1 グループ

・朝日村の農業の強み

基盤整備が整っている(畑かんなど)。品種が多い。グループの集まりやJAのタイアップがしっかりしている。市街地に近い。小規模農家が多いので経営の多角化がこれからできそう。

・弱み

JAと役場の連携が弱い。露地野菜が多いので天候に左右されやすい経営が多い。高齢化が進んでいる。温暖化などで風食被害・長雨による病気などが多いので生産力が左右されてしまう。若い担い手不足、今はほとんどが後継者で新規就農者があまりいない。全国的に見た時に朝日村の特徴が少ない。

・課題

JA・役場・生産者の連携がこれからは必要。今は生産者の話し合いが多いが、役場ができること、JAができること、それで生産者がちゃんと農業ができて利益がでるようなしくみが取れるのが課題。高齢者が長く農業ができるように、入り口が少なければ出口を長くする工夫も必要。資材などが昔に比べて値段が上がり、販売が少なくなっており、利益が出にくい状態なので、そこに補助金などできることがあれば具体的に出して実行していくことが可能であれば必要。朝日のブランドとして何か特徴を出せることが必要。

2 グループ

・強み

朝日村は葉物野菜の経験があるので、経験を生かした農業ができる。家族経営。多品目を生産しているなので、大物から小物まで市場の要望に応えられる。畑かん施設が充実しているの夏でも定植が可能。新鮮な野菜をいつでも作っているので、子どもたちに新鮮な野菜を食べさせられる。

・弱み

JA主導型でやっている所以他のところの意見を取り入れづらい。自然災害が近年多いことにより畑が流されるというようなことがある。家族経営のために休みが少ない、後継者が少ないのもその一つ。山間地が多いのでイノシシやサル被害を受けやすい農地があり、それがやがて耕作放棄地につながる。

・課題

後継者があとを継いでいただけるような農業をするにはどうしたらよいか。高品質・高収入を

考えなければならない。産地のブランド化。収入のあがる農業をしていかなければならない。

3 グループ

・強み

基盤整備が進んでいる。絶対数は少ないが、周辺や他の産地に比べ比較的后継者が多い。朝日村を指定してくれるようなブランド力がある。農協と協力して産地を盛り上げていこうとする雰囲気がある。多品目の野菜が作られている。

・弱み

高齢化によって規模が縮小したりして生産量が落ちている。援農体制が十分できていない。50年近い葉野菜を作ってきたことで十分経験があり強みでもあるが、土地も弱っているのではないかというような弱みもあるのではないか。

・課題

ここ数年出荷調整が続いているが、レタスの需給自体が今までとは違ってきているのではないか。最近の気象変動によって、作柄が不安定になったりしている。地域のブランド力朝日村のファンを作ることが収入を増やしていくことになるのかもしれない。そのためには、多様な農家を育てたり、多様な販売に取り組んでいくことも必要かもしれない。家族経営は強みでもあるが、高齢化の中で、今後の家族経営がどうなっていくのか新しい営農のしくみが必要ではないか。地域で農家の指定が新規就農者として参加してくれることもそうだが、よそから新規就農者が加わってくれるようにするにはどうしたらよいか。そうするための新規就農者の訓練や支援も今後の課題。

アドバイザーコメント

(小林課長補佐)

今回アドバイザーという位置づけをいただく中で、みなさんから様々な強み、弱み、課題を出していただいた中で、実際資料にもありましたが、人・農地プランの実質化という中で、相当細かなアンケートだとか集落のみなさんからのご意見もコロナ渦で難しい中で生かしてきていると思っておりますが、いわゆる家族経営ですから、自分の農地はこことこことこ。離れていてもこれが自分の農地という風な先代から続いている農地なので、それを人に貸して、また、人から借りてくるのが難しいことがもしあるのであるならば、人・農地プランを十分生かしたなかで集積と集約化、できるだけ一カ所に集中できるような仕組みづくりを今後やっていったらどうか。自分たちの家族の中で作ってきた土づくりを十分にしたなかで農地を人に貸すとか、あまり条件の良くない農地を自分が引き受けるだとか難しい課題もあると思うが、人・農地プランを生かしたなかで集約化。

家族経営が強みであるという中で、楽しい農業は非常によいと思うが、この家族経営が続く家庭はよいが、続かない農家もいると思う。続かない農家の農地をだれが引き継ぐか。長年培った葉物野菜の技術を、地方に魅力を感じている若者たちがいる都会から来てもらって、技術を教え込み、地域の担い手として生かし行くこともできないことはないか。

すべてが農協に出荷しているという話もあったが、農協とどういう風な地域の葉物野菜をやっ

ていくかについても、これまでどおり続けるのではなく、市場の考え方や朝日村のブランド力を高めるための取り組みはどうかをふまえ今回農業ビジョンの検討会のなかで検討し、どういうブランドを訴えていくかそういうところも皆さんの意見を踏まえた中で、村のほうに話していくことが必要である。

(穂谷主任)

まず第一は、朝日村は本当にすばらしい野菜の産地であると思う。ほかの野菜の大きな産地といえば、川上とか近くでは洗馬、佐久方面、千六方面とか大きな産地があるが、それにも肩を並べる大変重要な産地というような位置づけとなってくる。その源は肥沃な土地、あるいは基盤整備されていること。先日も農業委員会で基盤整備を見たが、そういう農地があると後継者も入りやすく、みなさんの意欲も掻き立てられると思う。その中には灌水施設もあって夏野菜もできるという話も先ほどあったがまさにそのとおりである。いずれにしても他にないような好条件になっているということ。

また、後継者においても、現在のところは親子経営が支えている。ほかの地域であれば里親制度を利用している。里親制度は2年間補助をしてほかの地域から来た人に地域に入ってもらえるというものであるが、ほかの地域ではそういった制度をせざるを得ない状況。朝日村は今のところはいいが、やがて高齢化という話もある中で、どうしてもほかのところから労働力が確保できないということもあるかと思う。そういった場合は、周辺の女性グループからも話があったが、そのような方策(里親制度)も踏まえた研究が必要であると思う。

家族経営が主体的という中で、家族経営協定という取り決めのやり方があるが、朝日村は残念ながら積極的な取り組みがされていない。そういった取り組みをすることにより、家族みんなの意欲ややりがいが出てくるという面もあるかと思うので、検討の余地があるのではないかと思う。

大変すばらしいご当地ですから、ぜひすばらしいビジョンをみなさまの力で策定されることを期待します。

その他

次回は、9月27日(金) 13:30から

以上